

# 中野目Ⅱ遺跡2次・川前2遺跡5次発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 平成30年10月6日(土) 13時30分～

調査要項	
遺跡名(番号)	中野目Ⅱ遺跡(201-135) 川前2遺跡(201-244)
所在地	山形県山形市大字中野目ほか
時代・種別	古墳時代～奈良・平安時代の集落跡
起因事業	須川改修事業に伴う
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局 山形河川国道整備事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成30年6月4日から10月25日まで
調査面積	中野目Ⅱ遺跡 3800㎡ 川前2遺跡 2000㎡
調査担当者	中野目Ⅱ遺跡 主任調査研究員 天本昌希(現場責任者) 調査員 吉田満 安達将行 川前2遺跡 調査研究専門員 齋藤主税(現場責任者) 調査員 白戸このみ 加藤津奈樹
検出遺構	竪穴建物、土坑、溝状遺構 出土遺物 土師器高坏、甕、須恵器坏

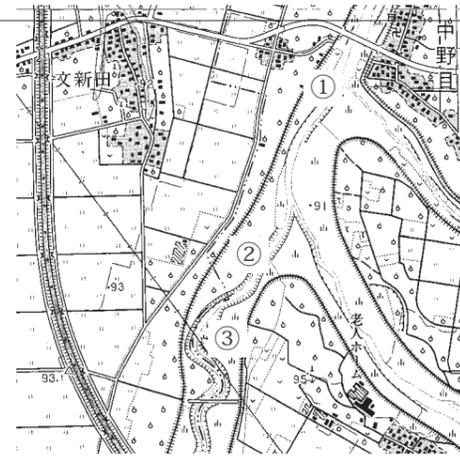


図1 遺跡位置図(1/25,000)

①中野目Ⅱ遺跡、②川前2遺跡、③上敷免遺跡

## 1 調査の概要

中野目Ⅱ遺跡と川前2遺跡は、山形市の北西部、中山町との市境で、蔵王から山形市西部を北に流れる須川に、白川と立谷川が合流する場所に立地します。今回の調査は、須川の河川改修事業に伴い実施され、調査区は、須川の堤防内となります。周辺の川岸には、河川の氾濫により運ばれた土砂が作り出した微高地に多数の遺跡が存在しています。

中野目Ⅱ遺跡の調査は、山形市教育委員会が行った1999年の赤坂団地の造成に伴う調査に続いて2回目の調査となります。前回の調査では遺跡の西端で堤防の外、今回の調査は東端で堤防の内側を調査しています。

川前2遺跡は、2002・03・07・08年の

須川改修に伴う調査に続いて5回目の調査になります。前回までの調査の西側に隣接した地区の調査により、複数の竪穴建物跡を検出しています。

## 2 遺構と遺物

### 中野目Ⅱ遺跡

調査区は須川の洪水に何度も見舞われたらしく、掘り下げると粘土層が縞状に堆積している様子が確認できます。出土する遺物は、ここで使用されたものだけでなく、洪水により上流から流されてきたものも含まれていることでしょう。

今回の調査で3軒の建物跡が発見されています。出土する遺物から、今からおよそ1600年前の古墳時代中頃と考えられます。

出土遺物の様子は、調査中のため全容を把握しきれませんが、古墳時代中頃のものが多くみられます。注目される遺物は、北陸の影響を思わせる脚部と身に段をつくりだす高坏や、急須のように用いられたと考えられる須恵器製の甕などがあります。窯で焼かれたねずみ色の焼物の須恵器は、この時代においては限られた技術であり、遠隔地からもたらされたことが想定されます。これらは、その他大量の遺物と共に、ST99号住居跡からまとまって出土しました。

また、権力者のアクセサリーである勾玉や、祭祀に用いた石製の鏡の模造品である有孔円盤なども出土しています。

今回の調査により、遺跡の東端部の様子が明らかになりました。複数回の洪水に見舞われている場所だけに、建物の痕跡は多くはありませんでした。今回の調査区は、川岸のムラはずれといったイメージになるでしょう。



図2 遺跡空撮(北から(中野目橋方向))

### 川前2遺跡

今回の調査では、古墳時代の住居跡や土坑、溝状遺構などが発見されており、また一部では奈良・平安時代の住居跡も確認されています。調査区南部から発見された溝状遺構(SD1)は調査区外に伸びるためその全容ははっきりとしないものの、四角い形であると思われ、山形県内では確認数がそれほど多くない方形周溝墓の可能性があると考えられます。また、ST4号住居跡からは多量の炭化物が、ST12・ST17号住居跡からは炉跡が検出されています。

注目される遺物としては、溝状遺構(SD1)から出土した古墳時代前期の土師器の高坏、その外側に位置する溝状遺構(SD2)から出土した山形県内ではあまり出土例がみられない特殊器台があります。そのほかにも横瓶と考えられる須恵器の欠片や砥石、土師器の器台など様々な遺物が出土しています。



図4 川前2遺跡遺構検出状況(南西から)

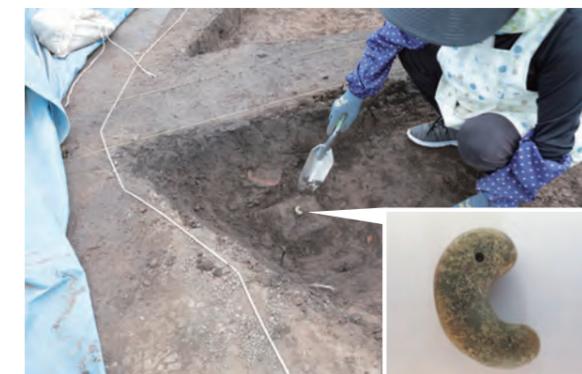


図3 中野目Ⅱ遺跡上層での勾玉出土状況



図5 川前2遺跡作業状況(北から)

# 中野目II遺跡 下層遺構配置図

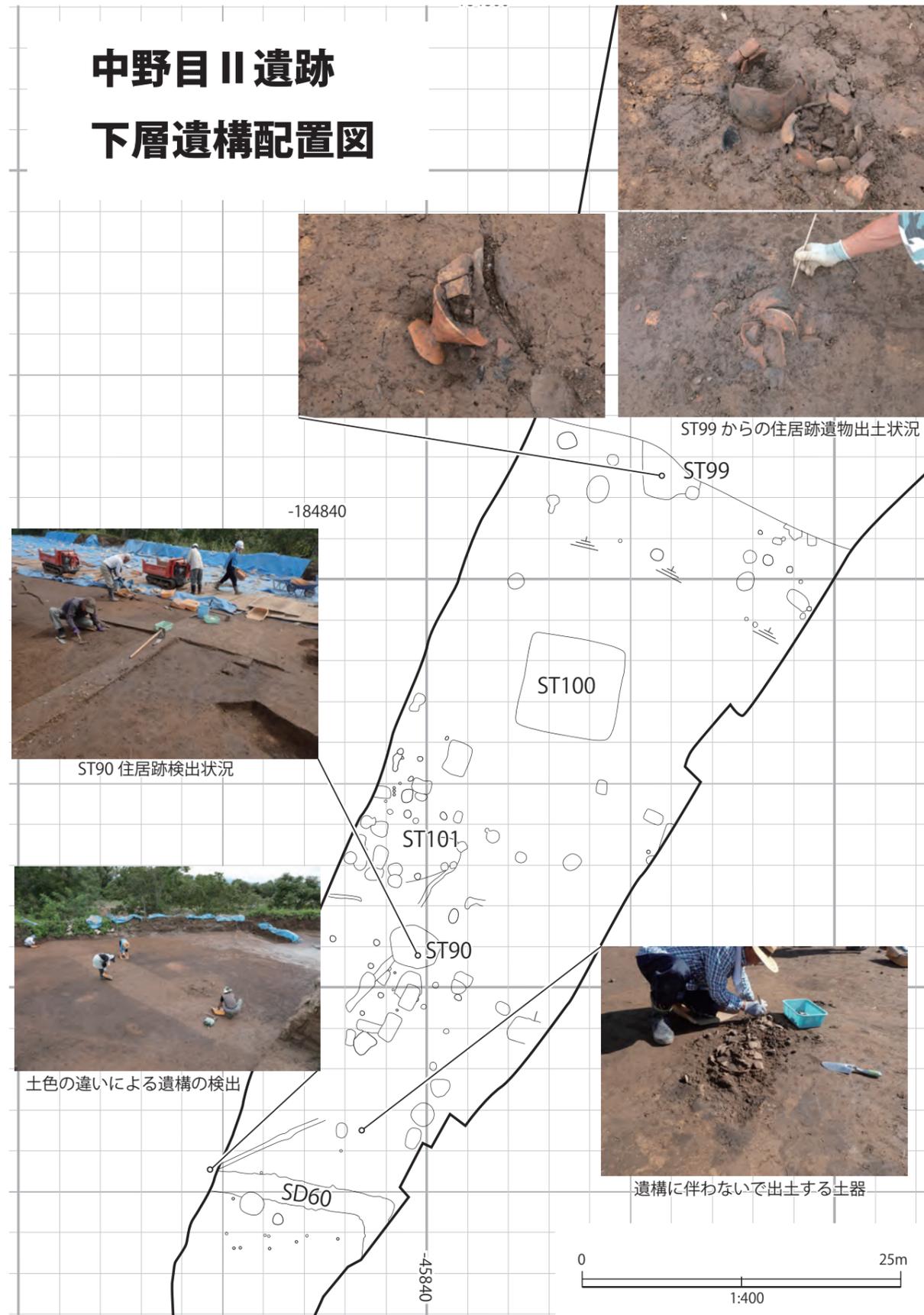


図6 中野目II遺跡概要図

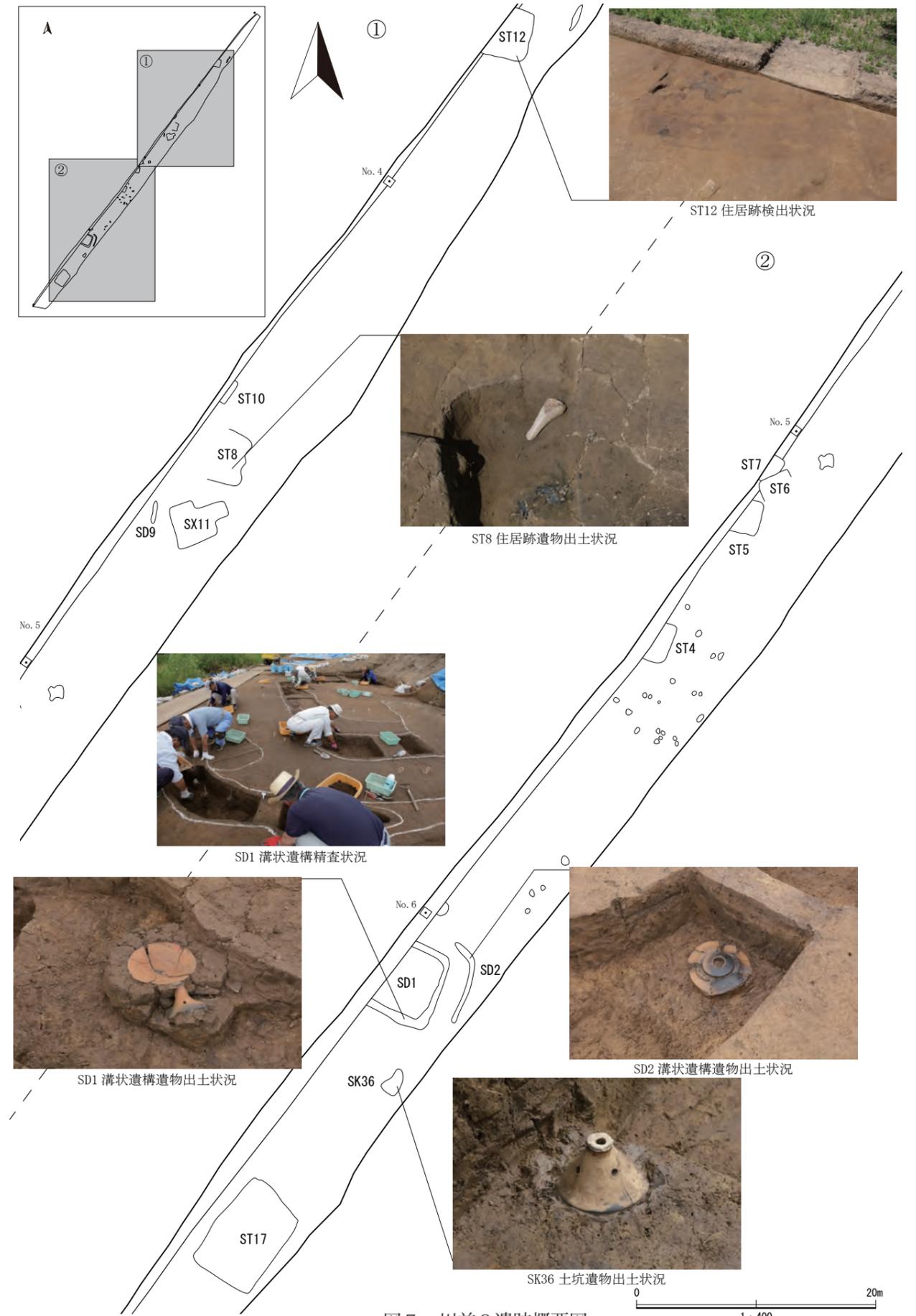


図7 川前2遺跡概要図